

読売歌壇

小池 光選

本名で最期を迎ふそのことが逃亡の果ての願ひなりけり
伊勢原市 佐藤 治代

【評】五十年近く逃亡していた連続爆破事件の犯人を名乗る男。本名を告げて、その数日後に病死した。最期に本名を明かしたことはいろいろなことを考えさせる。重い歌。
また雨が嘆く私が言う「雨が降らなげや虹は出ない」と
奈良県 松本 悦子

【評】孫の言はその通り。立派で、正しく、おばあちゃんの負け。世の中、何が起きてても悪いことばかりでない。つねに希望を忘れないことが大切。将来が楽しみな孫。
背伸びして蛇口を回す小さき手に踊り出でたる初春の水
城陽市 近藤 好広

【評】このたびの能登地震は、蛇口を回して水が出るのが当たり前でないことを教えてくれた。「踊り出でたる」水に感謝しよう。
初場所の優勝決定戦なればわれも力士とともに四股踏み
仙台市 加藤 祐子

ふふふと笑える短歌三度読み点滴室のとびらを開ける
「赤信号みんなで渡れば」卑怯なり森の石松ひとりで死んだ
東京都 大室 英敏

うちのひと道の反対側で手をたたく鯉じゃないんよ名前があるよ
狭山市 古谷真利子
容赦なき電動のこの轟音に従容として倒る老木
大阪市 黒田 道子

夕食はちくわ二本を食べたけ長い人生そんな日もある
守口市 小杉なんぎん
掛け布団が重たくなったとひとり言おんなじことを母も言ってた
町田市 城所レイ子

栗木 京子選

紅白に踊りはいらぬ歌あれば例へば八代田紀の「舟唄」
山形市 斎沢 晋作

【評】大晦日の紅白歌合戦。ダンスも華やかだが作者はじっくり歌を聞きたいタイプ。昨年十一月に亡くなった八代田紀さんの「舟唄」は、歌だけあればいい、と私も思う。
長屋門近くの紅梅朧らみて和服姿の人等が集ふ
桐生市 周東 孝一

【評】長屋門のある家は昔の武家屋敷を思わせる。近くに紅梅が植えられているのも趣深い。和服姿の人々は茶道の会などに集まっているのかもしれない。優雅な光景である。
トラクターのうしろを鷺の付きゆけり双眼鏡に冬日つららか
和歌山県 西村 道代

【評】飛翔する鷺でなく、トラクターのうしろを歩く鷺であるところが楽しい。双眼鏡で眺める作者の姿がほのぼのとしている。
境内に古式ゆかしき鬼やらひ出番待ちする鬼役十八
深谷市 三上 通而

少な目になく米飯も残りおり老いを感じる睦月の朝に
東京都 後藤美代子
山上にぼつねんと坐す頼朝像冷たき人でありしかと問ふ
神奈川県 中島やさか

若きらが十年後語る番組に「戦争の危険」意外と多し
綾部市 松下三三夫
宿直が明けて見つけたシリウスに一日前のわたしを探す
東京都 稲山 博司

大寒の玉子を載せてたなごころ優しくほむ「心」のように
静岡市 海瀬安紀子
顕微鏡初めてのぞく幼な子は雪の結晶雪ではな
香取市 斎藤 和子

俵 万智選

雑踏を無言で歩くポケットの中でこんなにお喋りをして
柏市 遠野 鈴

【評】ポケットの中で手をつないでいるのだろう。傍から見れば、それだけの二人だが、指をつつきあったり、ぎゅっと握ったりすることを「お喋り」と表現したところがユニーク。無言との対比も効いている。
空っぽのわたしがさみしそうだから造花みたいな予定で埋める
越谷市 あきやま

【評】空っぽの花壇に造花という連想だが、花瓶と言わないところが工夫だ。嘘っぽくて賑やかな空しさが、造花の比喩にもなる。
いつまでもとけのこる雪は妖精の接着剤のいたずらのおと
東京都 富見井高志

【評】とけのこった雪というのは、おおむね見苦しいものだが、美しく美しい比喩に、これからは見る目が変わりそうだ。
コンテンポラリー・ダンスを踊るレジ袋寒い夜こそジャズが聴きたい
羽曳野市 鎌田 如水

いつまでも溶け残りたる雪のごと霞草だけ挿さりし花瓶
千葉市 小金森まさ
すると黙つて膝に乗つてくる幼子のやう春といふもの
青梅市 諸井 末男

接点が英語しかないあなたから教わる「好き」のバリエーションを
札幌市 住吉和歌子
伸びる根は亀裂のかたち傷つけてはじめて花になるヒヤシンス
朝霞市 桐島 あお

ありがとうを他よりたくさん言えるから飲食店でアルバイトする
東久留米市 中里 正樹
「お互いに変わらないね」と言いながら入少し老けたと互いに思う
仙台市 小野寺健二

黒瀬 珂瀾選

風船がガサ囲む壁越えんとする少女の絵にも鏡向ける兵ら
千曲市 米沢 光人

【評】バンクシーの「風船を持つ少女」が描かれたのはヨルダン川西岸地区の分離壁なので、この歌の内容は事実ではありません。ですからこの歌は、戦争とは結局、弱者を虐げるものでしかないのだということ、架空と芸術の力に託して訴えているのでしょう。
さつまいも育みくれし土塊を鍬で均して畑じま
甲府市 伊藤千永子

【評】沢山のさつまいもを生み出してくれた土をゆっくりと鍬で撫でることで、感謝を表しています。農の息遣いがある一首です。
暖かき飯のすまかに身はあれど心は寒き被災の村に
茨城県 野田 政行

【評】避難先においても心は被災地の故郷にある。多くの能登地震被災者の心でしょう。
早々に詣でし今年の一の宮祈るは「戦争終結」のみと
さいたま市 三上 玲子

「ハイ、シリ」と妻がスマホに語りかくす目の前に俺が居るのに
草加市 飛田 一三
五十年連れ添い居ればわれの言う独り言にも文句言う妻
小山市 松本 喜雄

ネクタイをゆるめて嗚咽ふたたびの教へ子の通夜終へて冬月
対馬市 神宮 齊之
友の詠妻偲ぶ歌の載る歌壇スクラップせり介護思ひつつ
朝霞市 伊東 一憲

先生と生徒のまままで半世紀結ばれて未だ名を呼び合へず
泉佐野市 河合 陽子
獄庭の枯れ枝に咲く雪華見ればさる里浮かぶ蠟梅の黄の
山形市 内牧 白岳

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はいちごがり